

辻政務官のジュネーブ軍縮会議におけるステートメント (骨子)

1 冒頭

- CD設立40周年という節目にステートメントを行うことができ光栄。
- 議長を支援・協力。国連欧州本部長及びCD事務局の議事運営に感謝。

2 核軍縮を巡る状況・対話の重要性・CDの活性化

(核軍縮を巡る現状)

- 広島・長崎への原爆投下以来、核兵器のない安全な世界は国際社会が共有する目標。戦争被爆国として核兵器の非人道性を知る我が国も、核兵器のない世界に向けて、国際社会の取組を主導する責務がある。
- 核軍縮・不拡散の礎石であるNPT体制の維持・強化にとって重要な2020年のNPT運用検討会議を来年に控え、厳しい国際安全保障環境の中、いかに実質的に核軍縮を進めていくのかが課題。2020年はNPT発効50周年でもある。

(対話の必要性とCDの活用)

- 異なるアプローチを収斂させ、共通点を見いだすには、核兵器国と非核兵器国の両者を巻き込んだ対話が必要。
- この点、CDは、核兵器国と非核兵器国が含まれる唯一の多国間で軍縮交渉をおこなう場。この対話の場において、具体的な成果を見いだすことが、CD加盟国の責務。
- CDを、CD加盟国がそれぞれの立場を理解し、立場の違いではなく共通項を見いだすことに専念し、そのために歩み寄りができるような場とすることを目指すことが重要。
- 我が国は、核兵器の使用のもたらす人道的結末を十分認識しつつ、現実の安全保障の脅威に対処していく、この二つの観点を両立させながら、核兵器国、非核兵器国双方の協力の下で、現実的・実践的な取組を行う重要性を訴えてきた。

(賢人会議の紹介)

- 異なる立場の間の橋渡しの重要性に鑑み、我が国は、様々なアプローチを有する国の間で信頼関係を再構築し、核軍縮の実質的な進展に資する提言を得るために「賢人会議」を設立。
- 昨年11月、長崎で開催された第3回「賢人会議」に自身も出席。出席した賢人メンバーは、核軍縮を進めるために国際社会が取り組むべき具体的措置や中長期的に乗り越えなければならない「困難な問題」について議論を行っ

た。今後こうした議論を更に深めるとともに、12カ国の非核兵器国による地域横断的なグループであるNPTIとしても協力しながら、2020年のNPT運用会議に向けた国際社会の機運を高めていきたい。

3 グテーレス事務総長の軍縮アジェンダ

- 事務総長の軍縮アジェンダは、国連が軍縮分野に一層積極的に関与していくとの意思の表明であり歓迎。同アジェンダには、伝統的な議題に加えて、自律型致死兵器システム(LAWS)、科学技術、潜在的な脅威となりうる新しい課題への対応の必要性も述べられており、時宜を得たもの。
- 核兵器のない世界の実現に向けて、未来を担う若者たちが軍縮・不拡散の取組に関与することは重要であり、我が国としても国連と協力していきたい。

4 まとめ

- 40年にわたってCDが取り組んできた軍縮・不拡散の努力を継続し、将来の世代が希望を見いだせるように結果を出していくのが今日のCDメンバー国である我々の責務。
- 我が国は、本年のCD議長国、CD事務局、そして、全CD加盟国と協力し、核兵器のない世界の実現に向けて最大限努力していくことを約束。